

第16回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】令和6年2月17日(土) 午前10時00分～11時15分

【場 所】プラスチック類資源化施設 多目的室

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 1名 新井自治会 3名 落川上自治会 2名
百草園団地自治会 1名 百草園自治会 2名

事務局：日野市 5名（環境共生部長兼環境共生部クリーンセンター長、環境共生部主幹、施設課長、ごみゼロ推進課長、ごみゼロ推進課長補佐）

国分寺市 1名（建設環境部長）

小金井市 1名（環境部長）

浅川清流環境組合 5名（事務局長、事業課長、事業課事業係長、総務課長、総務課主幹兼総務係長）

【傍聴者】1名

【配付資料】

- ・次第 「第16回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・資料1 「プラスチック類資源化施設運転状況」
- ・資料2 「北川原公園ごみ搬入路に関する違法状態解消に向けた取り組み状況」
- ・資料3 「2023年度 維持管理情報」
- ・資料4 「環境定点測定結果（令和5年度 夏季）」
- ・資料5 「可燃ごみ処理施設専門家委員会について」
- ・資料6 「浅川清流環境組合の定める公害防止基準値の一時的な超過について」
- ・資料7 「次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について」
- ・資料8 「令和5年度水銀回収キャンペーン第一弾の実績について」
- ・追加資料「私たちの可燃ごみ処理施設（見学者用パンフレット）」

【次 第】

1 開会

2 議事

(1) 日野市より

①プラスチック類資源化施設運転状況

<説明内容>

日野市より資料1に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

②北川原公園ごみ搬入路に関する違法状態解消に向けた取り組み状況

<説明内容>

日野市より資料2に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：昨年、国土交通省が可燃ごみ処理施設の横に防災ステーションを作るに当たり日野橋方面から多摩川沿いを工事車両が通行しているが何の問題も無いと聞いた。可燃ごみ処理施設の搬入路も最初はこのルートを検討していたのか。検討して駄目になったので北川原公園内になったのか。

(日野市)：北川原公園内の搬入路の話は、可燃ごみ処理施設建設の際に地元自治会との協議で、浅川側でなく多摩川側で、更に北川原公園内を通すということに決まったが、裁判の結果、手続上、違法であったということ。

防災ステーション建設に当たっての工事車両は、浅川側、多摩川側両方を通行しているが、北川原公園内を通っていないので違法性は無いということである。

(2) 浅川清流環境組合より

①可燃ごみ処理施設運転状況について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料3に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：井戸水を使用していると思うが、旧施設と比べ使用量は増えているのか。また、汲み上げた水は全量使用しているのか。余った水は地下に戻しているのか。

本稼働後3年が経過しているが、地下水の水位の変化はあるのか。

PFOS等の問題も取り上げられているが、水蒸気として外に放出されて問題は無いのか。

旧クリーンセンターと新施設では発電規模はどれくらい差があるのか。

(組合)：旧施設は800KW、新施設は5,190KW。

PFOS等についてだが、毎月実施している井戸水の検査項目には入っておらず、一昨年の12月にたまたま保健所がPFOS等の検査を実施した際には検出されなかった。

地下水の使用量や水位の変化については後日回答をさせていただきたい。(※回答については、要点録と一緒に回答文を全委員へ送付)

②環境定点測定結果

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料4に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：資料4の悪臭の基準値が10に対して結果が10未満ということで、測定値が基準値ぎりぎりなのか余裕があるのか全くわからないが、10未満は測定できないということか。

(組合)：お見込みのとおり。

(委員)：資料3の悪臭の基準値は12以下となっているが、資料4の基準値と差をつけているのは理由があるのか。

(組合)：悪臭防止法に基づき日野市の用途地域ごとに基準が決まっている。資料4については第一種低層住居専用地域なので基準値は10、組合がある場所は準工業地域ということで基準値が12となっている。

③可燃ごみ処理施設専門家委員会について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料5に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

④水銀測定値が公害防止基準値を一時的に超過した件について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料6に基づき説明を行うとともに、各市より資料6の取組状況の説明を行った。

<質疑・応答>

(委員)：周辺自治会としては水銀の問題が一番怖い訳だが、水銀回収キャンペーンを前倒しで行ったというが、他にどのような方策を取ったのか国分寺市と小金井市にお聞きしたい。

(国分寺市)：国分寺市長の発案で、水銀回収キャンペーンにおいて、水銀体温計と電子体温計を交換するという取組みを構成市と組合で協議し実施した。あと3市足並みをそろえて行った対応として、商工会や医師会等様々な事業所に周知のための文書を送付した。

現在2～3月で水銀回収キャンペーン第2弾を実施中。

また、構成市と組合で現在、携帯型水銀測定装置を発注している。

水銀を可燃ごみ処理施設に搬入させないため、抜き打ちにはなると思うが検査を実施していく予定。

また、従前から取り組んでいることだが、引き続き市報やホームページ等で啓発をしていく。

(小金井市)：国分寺市から説明があったこと以外で、市で独自で行ったこととしては、水銀混入防止のチラシを作成し全戸配布を行った。

(委員)：体温計交換はかなり効果があると思う。各施設においてキャンペーン期間中だけでなく常時交換できるようにしてはどうか。

(日野市)：今のご提案を踏まえて、今後検討していきたい。

3 その他

①次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について

<説明内容>

国分寺市より資料7に基づき説明を行うとともに、各市よりごみ減量に向けた取組みについて説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：取組みにおいてわからない単語があるので教えてほしい。日野市はジモティースポット日野。それとBtoBリサイクル。国分寺市はフードマッチングサービスについて教えてほしい。

(日 野 市)：ジモティースポット日野だが、もともとリサイクル事業所の運営をシルバー人材センターにお願いしていたが、ちょっと弱い部分もあるということで地域のかわら版のような仕事をしている業者と協定を結び、同じ場所で同様の事業を行っている。
シルバー人材センターと違う部分は、洋服や小物やおもちゃ等も扱っていることである。メルカリの地元版みたいなものとなっている。ペットボトルのBtoBリサイクルだが、これはボトル トウ ボトルという意味で、既に国分寺市が行っているところではあるが、市民の皆様から集めたペットボトルが必ずペットボトルに生まれ変わるといふ環境負荷の低い取組みである。

(国分寺市)：フードマッチングサービスだが、小金井市のカメすけの事業と同じシステムで、WEB上で食品ロスを防いでいく事業である。

(委 員)：私たちが子供の頃はビンが主流であり、空き瓶をお店に持っていくとお金が貰えてお小遣いにもなったりしたが、ペットボトルで同じような取組みはできないのか。

(日 野 市)：メーカーの人から聞いた話では、ガラスの場合、洗浄するための薬品等は物質として通さないが、ペットボトルは少し通してしまうようで、洗浄して再利用できるものではなく、やはり一度溶かす必要があるとのこと。

(委 員)：ペットボトルに再生する場合、市の負担は増えるのか減るのか。

(日 野 市)：市の負担は減る見込みである。

(委 員)：リサイクルに掛かる費用を0にするように、全国の企業で団結して取り組むという計画は無いのか。

(日 野 市)：過去はプラスチックを輸出していた時代もあったが、現在はできるだけプラスチックの輸入を受け入れないという考えに変わったので、大体1トン当たり6万円程度の費用を払ってリサイクルをしている状況。ただ容器プラスチックについては法律によりリサイクル費用については企業側が負担することとなっている。ペットボトルについては利用価値が高いので売れているような状況。

(委 員)：次期可燃ごみ処理施設建設に向けたスケジュールでは、令和16年

度に覚書を締結する計画になっているが、その時期までにどの程度ごみを減量させるのか考えているか。施設は小さいほうが環境負荷は少ないので、減量についての取組みは早い方が良いのでは。

(日 野 市)：日野市の第3次ごみゼロプランの中では令和8年度までに 2,600 t 以下にするということで明記をしている。

(委 員)：各市の計画値で次期施設の規模を考えているということか。

(日 野 市)：ごみは限りなく減らしたいと考えているが、現実的に未来への目標値というものを持ち計画を進めていかなければならず、令和16年度には目標値に対し実績値が出ているので、相談しながら進めていきたいと考えている。

(委 員)：江戸時代はごみが無いというか、全てを活用していたと聞いている。アメリカみたいに何でも捨てればよいという考えではなく、3市でごみを出さない先進的な取組みを考えてみてはどうか。

(日 野 市)：江戸時代は究極のリサイクルスタイルかなと考えている。現在の生活スタイルは高度成長時代を経て今に至っているので、江戸時代に戻すことが最善とは思わないが、行き過ぎた消費スタイルやごみに対する意識等について、3市でぜひ考えていきたい。

②令和5年度水銀回収キャンペーン第一弾の実績について

<説明内容>

日野市より資料8に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

4 閉会

次回会議（予定） 令和6年7月10日（水） 午後6時30分～
プラスチック類資源化施設 多目的室

以上